

青梅業務核都市基本構想の概要

1 業務核都市の範囲

青梅市の全域（面積：約10,326ha）

2 整備の基本的方向

自然環境や伝統文化と調和した持続可能な開発により、付加価値の高い地域独自の産業づくり・就業の場づくりを進めるとともに、水と緑の豊かな自然や、歴史的な観光資源を生かして、文化、観光、福祉・健康等の機能の拡充を図り、業務核都市としての中核性・自立性を高めることを目指す。

3 整備の方針

産業機能については、圏央道の交通利便性や、優れた交通結節機能を生かし、多摩シリコンバレーの形成に向けて、新たな物流機能の立地誘導や、産業集積を図ることにより、アジアを代表する産業拠点の一つに育成していく。

業務・商業機能については、中心市街地の駅周辺における業務集積を図るとともに、観光商業の取組を始め、地域の特性を生かした魅力ある商店街づくりを通して、中心市街地の活性化など、活力あるまちづくりを進めていく。

文化、観光機能、福祉・健康機能については、水と緑の豊かな自然や、歴史的な観光資源を生かして、観光地としての魅力の向上や、健康まちづくりを推進していく。

4 業務施設集積地区及び中核的施設

業務施設集積地区 (注1)	面積 (ha)	整備の方針及び中核的施設(注2)
青梅中心市街地 地区	約 197ha	シビックコア、商業、歴史・文化を生かした観光等の都市機能の集積による交流拠点を形成 <中核的施設> ・市民ホール、芸術交流拠点、河辺温泉「梅の湯」ほか
青梅インターチェンジ 周辺地区	約 226ha	圏央道の利便性を生かし、物流施設、先端産業の研究施設等を集積 <中核的施設> ・地方卸売市場、民間研究機関ほか
梅郷・沢井地区	約 134ha	水と緑の豊かな自然を生かし、観光の回遊性を向上させるなど、観光交流拠点を形成 <中核的施設> ・吉川英治記念館、玉堂美術館、カヌー拠点ほか
青梅・長淵・河辺 地区	約 206ha	文化・芸術活動促進拠点として、大学施設を位置づけるとともに、多摩川の河川敷を活用し、自然学習体験施設を整備 <中核的施設> ・大学施設、多摩川親水施設、郷土博物館ほか

(注1) 業務施設集積地区は、事務所等の業務施設を特に集積させることが適当な地区

(注2) 中核的施設は、業務施設集積地区を整備する上で中核となる施設で、事務所のほか、研究施設、展示施設、会議施設、美術館、スポーツ施設など